



八重垣翁云高世地下の人、儒書をふ者の如く方、悦高先生
乃切之居敬窮理の正脈と存き終ふ。吾加先生之令傳の正之相伝
以公公らうとしてその学治世の人の知りてくべきこと

井原節先を信託并附偏松下長教し授けり之簡方也

吾加先生と尊家せしむる 茲生也^{吾加先生}の如く吾加翁と

行ふことあり 此の吾加翁の著述とるしむる 若田之疏

おね社治 大黒江夷子記 岩波寺長政不花 北村政元考

文筆筆源 吾加村 ホウウ 胃子門下 若長伊豆

一人のやうしむる 吾加翁後寺長経年止

大和小学



大和指本朝又大和國古
小學小子之學也

せう人れしむる世流しむる家乃しむる分りぬる

深長伊勢物流あもしむるあもる人しむる男女あり

まゝりにははれしむるしむるたしむるしむる

えんやいしむる 江原宣賢の経

物治の好色のしむるしむる礼とふくむし

れありしむるしむるしむるありしむる書業年地紙

くはしむるしむるしむるしむるしむるしむる

じよあゝーはらのえいぬのーあつまはつをひあつたよ
 ーのまゝのつれづれのつれづれとーくまひの
 ほゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ーはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ぬかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ーやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 びもれ目とたてーやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ーゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ーゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

周東先生加友君のすま
 へつゝ編成ありと
 大正二年一月廿四日寄

主教第一

大正二年一月廿四日寄
 中村精雄氏贈

うりやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 らゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ーゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 性のがゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 洗知ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 自とぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ぬれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ーゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ありあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 けゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ーゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ーゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 まなる物だゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ーゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

目まひの人を治せしむる事其の難しき事なり
其の治すに子平自方智人今も其の治すに
又其の治すに位相家と云ふ事其の治すに
人の治すに位相家と云ふ事其の治すに

温公の乳母ありし其の乳母を
温公の乳母ありし其の乳母を
温公の乳母ありし其の乳母を

孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに

孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに

孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに

孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに

孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに

孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに

孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに

孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに

孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに
孟子の治すに位相家と云ふ事其の治すに

小室のつれづれ考案の及とぞく一人六才より五才まで
てもそのあまふ人ぞたむむらたせりゆのむらひ十年より
たれしかおまひしえんてゆきゆくしゆくけりこらへ

一 祇園第十代真宗天皇の御治下百津園より河直波と

未開釋天

始年大武

帝大寶元年

二月至十

後醍醐帝寬

正中其禮尚

未廢追尋後

去爾帝德千

元年大亂逢

冷中之發而

其礼絶其自

大亮年其

應仁元年凡七

百六十七年

此のつれづれ考案の及とぞく一人六才より五才まで
てもそのあまふ人ぞたむむらたせりゆのむらひ十年より
たれしかおまひしえんてゆきゆくしゆくけりこらへ
一 祇園第十代真宗天皇の御治下百津園より河直波と
此のつれづれ考案の及とぞく一人六才より五才まで
てもそのあまふ人ぞたむむらたせりゆのむらひ十年より
たれしかおまひしえんてゆきゆくしゆくけりこらへ
一 祇園第十代真宗天皇の御治下百津園より河直波と

新修牙形

ゆりうり

二月の三日とともうとれあ
君よそのふかふのひとら
か 目出たりしつらの海よりまはれりや世の
将学院藤氏の知学院瑞氏の字彼院をしくその名
とちりとのすまひ かり下那の足利寺法印
そしけるときを以て然るを志途海よりり文庫の
あまふ尋しむむら すすむかきりり
河の書にハハ勸考よの瓜さぬとてんせゆるが
き河の書にハハ勸考よの瓜さぬとてんせゆるが
一 正統元年七月七日天皇の御治下百津園より河直波と
たれしかおまひしえんてゆきゆくしゆくけりこらへ
一 祇園第十代真宗天皇の御治下百津園より河直波と
此のつれづれ考案の及とぞく一人六才より五才まで
てもそのあまふ人ぞたむむらたせりゆのむらひ十年より
たれしかおまひしえんてゆきゆくしゆくけりこらへ
一 祇園第十代真宗天皇の御治下百津園より河直波と

不知小學三教

明倫第二

倫は叙なり人よみればあり父子は親とみく
 叙は序なり親をみくはのまゆを別とみくはは
 を知い序とみく叙明なは位とみくははつと
 天倫もいふ所のちちとみくははつとみくははつと
 又見ればとみくははつとみくははつとみくははつと
 ひいりて目まけりて親とみくははつとみくははつと
 乃て成ありてははつとみくははつとみくははつと
 徳母かまひとみくははつとみくははつとみくははつと
 ころんとははつとみくははつとみくははつとみくははつと

こあ... ね... 誰... 子... 年...

一月のす... 病... 何... 後...

父... 母... 中... 宗... 親...

一... 母... 父... 弟... 兄...

一... 弟... 兄... 父... 母...

公...

一... 弟... 兄... 父... 母...

一... 弟... 兄... 父... 母...

一... 弟... 兄... 父... 母...

一... 弟... 兄... 父... 母...

一... 弟... 兄... 父... 母...

一... 弟... 兄... 父... 母...

一... 弟... 兄... 父... 母...

おこすものすくなく、宰我の叔期してやせん、以勝の
久このは、そのひび百官見かあや志みあり、源の冬帝
経妻の制あり、よき、す、此の帝の母、
以法のこれ、よき、妻、此の、伊川先生の
家、字、園、よき、ひ、よき、よき、よき、よき、
考、亨、夫子の家、禮、也、勝、亨、の、多、る、廢、城、節、を
可、く、そ、郷、の、俗、か、り、と、や、禮、家、の、心、の、同、有、其、子
ま、る、る、を、そ、く、よ、家、家、禮、を、よ、の、む、よ、の、れ、回、し、よ、
胡、敬、齋、も、言、り、礼、祥、乃、金、自、強、は、よ、又、よ、り、又、
如、の、妻、よ、よ、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
今、せ、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
な、走、二、親、也、よ、六、年、暮、よ、存、よ、よ、よ、よ、よ、
用、よ、よ、よ、燕、山、の、末、よ、經、妻、の、法、よ、よ、よ、よ、よ、
文、母、の、妻、の、禮、と、よ、よ、よ、神、中、親、戚、妻、と、脱、よ、よ、よ、よ、
よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、
終、よ、よ、年、母、と、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、
終、よ、よ、年、母、と、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、

て、雨、雪、る、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、
一、終、て、三、年、位、む、か、一、婦、姑、天、皇、孝、心、き、り、て、妻、
葬、よ、心、以、は、く、一、終、ひ、一、そ、母、子、甫、也、か、武、二、年、
武、二、年、位、む、か、一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、
仲、法、も、る、と、神、乃、漸、お、と、る、と、武、天、皇、乃、市、時、よ、
火、葬、を、し、ま、す、と、人、の、心、に、よ、く、あ、り、ぬ、を、は、家、禮、の、
心、に、よ、く、あ、り、と、妻、祭、と、つ、と、心、以、は、く、あ、り、人、の、心、に、
を、俗、乃、ひ、よ、う、の、よ、と、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、
一、名、家、権、柄、必、誠、必、信、と、一、悔、悔、り、と、か、れ、を、い、ふ、る、は、文、
句、れ、火、葬、の、不、孝、を、あ、り、と、禮、未、も、く、あ、り、と、よ、
め、り、家、の、衣、履、の、火、葬、を、母、を、す、る、は、道、徳、よ、よ、よ、よ、
武、二、年、位、む、か、一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、
よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、
礼、命、よ、子、子、の、い、や、と、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、
一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、
一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、一、終、ひ、

中唐同七九章解出

一 齊明天皇の崩す
皇太子
天智天皇
天命開天皇

根孫 我梅能 姑哀之 根 阿羅伽 羅伽 底底 底底
かか 野 姑 悲 謀 根 孫 我梅 弘 報 梨

一 号氏逝去して後一任及んばの定を賜ふれり

義行朝臣
神

一 又りひまをさる
忠岑

志岑
神

一 母りひまをさる
神

一 母りひまをさる
神

一 親の三年忌をさる

神

一 新皇集り初め御道つ流りて
深淵の俊もあけり
昔

今もいかに神りし
あはれもあはれ

と

新之助とて名

あやめはあそびてさしつかへなくも

あそびさうじに秘伝はこゝろの事

一 門徒一 地老より先んてゆりて 廿二年に胎しき

こゝろさうじにゆりてきく 地老の院宗殿と云ふりて

只ひ作らば待ける

右之将長親

兄と名まされしあやめがしるるおふも

こゝろさしるるさうじに

一 言葉の難解學士權あゆ羊十ののけし又虎よりまぬ

あゆめのあそびごとをひんとしてかきしるるあそびし

所とあそびしるるあそびしるるあそびしるるあそびしるる

あそびしるるあそびしるるあそびしるるあそびしるる

あそびしるるあそびしるるあそびしるるあそびしるる

あそびしるるあそびしるるあそびしるるあそびしるる

板橋 至孝子産 信守 感涙 五三

頁云 日加塚上 知者 明月 活風

生幻 苦死 幻守 誰謂 存亡 始終

とん 幻守 誰謂 存亡 始終

とん 幻守 誰謂 存亡 始終

とん 幻守 誰謂 存亡 始終

とん 幻守 誰謂 存亡 始終

とん 幻守 誰謂 存亡 始終

とん 幻守 誰謂 存亡 始終

とん 幻守 誰謂 存亡 始終

とん 幻守 誰謂 存亡 始終

とん 幻守 誰謂 存亡 始終

一 虎狼も文子の教ありて我が国はまはりて是を

一 虎狼も文子の教ありて我が国はまはりて是を

一 虎狼も文子の教ありて我が国はまはりて是を

甲斐國をゆぐるを何の由目なるやて尋ねひす汝らも
その子孫數十をせられしとてわろひみせの人格れん
修志の法成やふさふさゆいひて宮守ありと宮守ん
ちけり俗れのもの入軍遣はかさるる御入海あり
たそそらりりるるるるるるるるるるるるるるるる
君臣の義い天性もく格の象儀の定ましくはれりありぬ
いんやいんやとてくまきとてくまきとてくまきとて
なりやん殿を結うるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
このまじりたるすすすすすすすすすすすすすすすす
四月の又いひしもの事ししとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
かきりくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて

道不
道不

程伊川曰釋
退之拘幽
操曰目掇掇
兮其疑其首
耳肅肅兮
一 天照大神之孫の神皇武甕槌尊
あひたふ家異國もたうくまきとてくまきとてくまきとて
神靈實氣也侍承成りしむる神皇八坂瓊の曲じあり
宮御を三皇教を叙ありゆゆふ八坂流ありゆゆふと
のふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて
くまきとてくまきとてくまきとてくまきとてくまきとて

道不
道不

淡々と語りけりあらずいねた風流をその色まのふ昔
くさくさとそくしん抄秘抄よま結構とつてむじり
あをさか風用のひるふらりあることなり
平次より三行乃度は〜

此書京のあり〜

とらう作程のあ本一又む中よえ〜
かか存希まの結乃〜中〜
海兵衛
知に書の〜
あれいなり〜
下ふの人の〜
あか〜
あ〜
法書〜
紙細の神まの〜

以天地風雲為四正以龍虎鳥蛇為四象
相從陣之中又有西陣
之權陰陽有剛柔之節 彼此有虚实之地基各

一 以天地風雲為四正以龍虎鳥蛇為四象
相從陣之中又有西陣
之權陰陽有剛柔之節 彼此有虚实之地基各

有先後之數此乃武後八陣圖也在興元府西縣定軍山下聚石為之

のりなるなり〜
紀元〜
范張樂毅
韓信張良〜

之要

一 孝子の人 蔡李通ハ持議大吏の人なりしをくし陳小
をきくは 易法孤依り古今の経とありをりある
漸くは 孝子と定んくゆり

一 孝子の地乃 死地ハ之持の服たうらされかうりたけと
かうりしをん 乃のり年しじとかんりらう 律法之背水
叙相義經の形紙 孝子 惟志をきせりとなし

一 孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし

一 孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし

一 孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし

一 孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし

一 孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし

一 孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし

一 孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし

一 孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし

一 孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし
孝子の 孝子 惟志をきせりとなし

孔子絶筆十餘年身後
修政事上河圖對不布省句合
一 聖不從不驅事以是
久安右所言報則草書矣。

一 人信二海...
一 司馬溫公...
一 後のれえ...
一 丁公...
一 丁公...
一 丁公...

以爲... 聖不從... 久安右...

竹の向のう...
一 確略...
一 一 確略...
一 一 確略...

一 天正の江品柳原のた、く小毛交指介志死し
 ぬりをもくハ澄子の北伝述くハ不倍文の打上る命に
 口し物治るふし神徳初大田一揆の時空向う子舞と一揆
 のものともうてにぐおと指介世くはたしさち死する由
 五舞とらけあてえとのあせくあげし世、いかりらむひさ
 一 隆の王孫母命とすく、主隆とてそあま北村さび
 七勢老ら母も又ころう陵芭があらいと、あはよ是んゆる位
 勢老にむくをせさるるふあしと、進兵舟もれし一知也
 一 徳田の将子發し、ふしの泰とせひりけく、無頼つとく
 士率、菟とけんをけしけつに子ああさゆああ念ぬあ
 泰とやうてふしし、その母とともて、道は入しとせあて
 云く、然も白紙の具とをち、いの中とささくや、酒一盃とさ
 のあり、王も口を口のら、そ、れをがれと、軍士よ香しめ

一 楠一俊とす、とも又わららやと、とあ特し、と士率
 まあとら、ひららよひらう、あ念し、ぬら、はらそ、や子ああ
 うく、ふひく、あえ

一 俣衛府の天と殺し、けり時王孫賈母のり、く、く、目よ
 ぐ、母り、あ、う、ゆ、つ、ひ、あ、そ、ひ、ぬ、り、時、を、く、と、ま、ら、て、門、周
 一 湯、い、今、と、出、て、こ、う、と、あ、く、は、ら、あ、く、ゆ、ま、し、ま、と
 一 公、ひ、ゆ、も、さ、ら、し、ま、ま、た、ま、あ、と、ま、ま、て、ゆ、と、て、帰、り、母、を
 一 や、と、ま、ら、し、わ、ら、り、王、孫、賈、す、あ、つ、ら、市、中、う、け、り、回、人
 一 と、も、ら、り、て、俣、衛、と、講、し、ぬ

一 崔押奇の志と殺し、けり、何、孫、志、と、い、ま、の、あ、り、君、の、従、の
 一 ず、て、ゆ、さ、し、か、食、し、て、し、と、う、り、ひ、車、よ、て、載、と、先、ふ、御、名
 一 せ、ら、ら、て、ま、か、の、ま、し、ゆ、て、あ、や、あ、く、ん、と、ふ、不、在、志、の
 一 新、く、死、す、ら、ハ、衣、あ、り、而、あ、さ、ハ、私、あ、り、わ、と、し、の、あ、ま、と、
 一 疾、し、と、く、つ、あ、く、ゆ、さ、ら、く、ひ、の、く、志、と、し、を、驚、さ、さ、死、し、ぬ
 一 一 かく、取、病、ま、の、と、あ、る、の、ま、や、と、言、が、と、ま、さ、ハ、志、ハ、考、て、氣、よ、し
 一 一 あり、ま、や、と、言、の、ま、の、ま、と、た、ま、ら、て、ま、氣、を、そ、こ、あ、る、り

らうとクと秘術カ〜素非陽也朝小さひ〜殿との感とあひて
用ふべき宿陽のひかり〜おまあり〜おかくお〜しておの
わけ〜血まの骨ひきの〜侍の元つゝある年せも乳を
ももる事とくおゆる〜礼よ四千を疆とさひ仕とあるが
あつ〜たのたに治ちの財をさなり〜まれば未済をいさす
〜あつ〜つ〜仁義の骨の血乳の骨の残り子孫ふ〜

○神よのい〜侍侍遊る侍侍舞る天祥〜う瓊文をさるり
〜神よのい〜侍侍遊る侍侍舞る天祥〜う瓊文をさるり
〜神よのい〜侍侍遊る侍侍舞る天祥〜う瓊文をさるり
〜神よのい〜侍侍遊る侍侍舞る天祥〜う瓊文をさるり

微駁盧寓より下り申〜えのあらをよめがらりみよのま〜
〜え〜むひも〜のれ子と〜各福〜をたり〜むひ〜を
〜え〜むひも〜のれ子と〜各福〜をたり〜むひ〜を
〜え〜むひも〜のれ子と〜各福〜をたり〜むひ〜を

系、蓋鳥首ハ天思天祥のひかり〜ゆれい〜おと因敷
〜え〜むひも〜のれ子と〜各福〜をたり〜むひ〜を
〜え〜むひも〜のれ子と〜各福〜をたり〜むひ〜を
〜え〜むひも〜のれ子と〜各福〜をたり〜むひ〜を

うしをちりていひららのゆふみへくちまつたふとてて大蛇
ちりてひらのけのゆらゆらと見えて八坂の頭をひらのさう
ぞよよれつりてのこたひてゆらゆらけるるすむらう十抱
敵をぬくすすきさきりゆらゆらつらつらとけ家さとの
こたひつりてぬねとささけいぬひん^中いひらんのほろま
あつちいれれぬありとしくお思を神さあつちいれれと
のまきくまひひいぬんぬぬぬと^ほほほほとつらとつらと
まほひとく

いふまきり^中おまきりかき書^中書
ぐへきい^中はくらのそのやくか^中成紙
とあなちたりるを字一字のら^中めめ^中三のつきお一たりを
すい^中ゆい^中かを^中に^中びりて^中讀^中て^中は^中も^中ト^中ぬ^中ゆ^中つ^中き^中い^中あ^中ら^中う
と^中い^中陽^中分^中と^中す^中こ^中後^中に^中す^中れ^中ふ^中あ^中ら^中る^中を^中い^中信^中分^中あ^中れ^中バ^中こ
す^中く^中く^中ま^中な^中く^中む^中あ^中ら^中と^中教^中字^中や^中ゆ^中り^中い^中は^中く^中さ^中の^中深
日^中く^中な^中る^中お^中ゆ^中く^中さ^中あ^中の^中戸^中を^中も^中や^中こ^中ら^中よ
あ^中ら^中あ^中の^中あ^中こ^中よ^中り^中ま^中ま^中と^中い^中は^中た

天祿一
天祿一
天祿一
天祿一
天祿一
天祿一

を猶田屋の通守ありとすは年若き古事日本紀抄より
いふむ風を記さるる一是末を記しとすむらとすむらとすむらと
瓊々杵を天照太神の御孫とすはゆを本紀南都御
杵を記しとすむらとすむらとすむらとすむらとすむらと
娘にけひとすむらとすむらとすむらとすむらとすむらと
あつちいれれぬありとしくお思を神さあつちいれれと
のまきくまひひいぬんぬぬと^ほほほほとつらとつらと
まほひとく

結句
結句

又りしちひそあしあかめくは又の春に供する年一平生の
てしして二十余年をこころうけられたるその田圃に
つくづくしりし
一 漢の樂羊子が東門外を去りて見ふ所ありて曰く卿の棄て
ちひす又たしぬはよしその答に曰くひあふふをたし
て其の争ひしりし 一 門下そのその田圃をわたりて自節
とあしりしりし 一 日本 歌仙 田史あしりし其をたしりし
それとわたりしん
一 建礼門外の木をよりて其の世をささるるありし
いふせんぬりたの世をささるるありし
ひのりしとささるるありし

いふせんぬりたの世をささるるありし
ひのりしとささるるありし
一 正長四年の秋にふしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
一 正長四年の秋にふしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
あかめくは又の春に供する年一平生の

一 漢の樂羊子が東門外を去りて見ふ所ありて曰く卿の棄て
ちひす又たしぬはよしその答に曰くひあふふをたし
て其の争ひしりし 一 門下そのその田圃をわたりて自節
とあしりしりし 一 日本 歌仙 田史あしりし其をたしりし
それとわたりしん
一 建礼門外の木をよりて其の世をささるるありし
いふせんぬりたの世をささるるありし
ひのりしとささるるありし

一 漢の樂羊子が東門外を去りて見ふ所ありて曰く卿の棄て
ちひす又たしぬはよしその答に曰くひあふふをたし
て其の争ひしりし 一 門下そのその田圃をわたりて自節
とあしりしりし 一 日本 歌仙 田史あしりし其をたしりし
それとわたりしん
一 建礼門外の木をよりて其の世をささるるありし
いふせんぬりたの世をささるるありし
ひのりしとささるるありし

まて花やぐさや... 思長教育... 賢長... 賢長...
五十年前出賣之親 老專曾不戀家分負
玄竺智太守贈金曰 方信詩書不負人
と氣...の事...の事...

青尊池鳥一故丘 十年埋骨不埋羞
丁寧囁付人間婦 自古槽糖合到頭

一 喬の因王...
の庸夫と云... 大いさ... 子の人...
けり... 法... 因... 其の... 女... 夫人...
顔の事... 下... 胡...
馬... や...

一 晋の諸... 其... 文... の... 務... と... 始... 云... 然... 寺...
一 漢の成帝... 建... 師... 古... 書...
一 衛の... 子... 夫... 婦... 人... 女... 人... 婦... 人...
一 上... 師... 衛... 師... 建... 師... 漢... 師... 晋... 師... 趙... 師... 魏... 師... 魯... 師... 齊... 師... 燕... 師... 趙... 師... 魏... 師... 魯... 師... 齊... 師... 燕... 師...

一 晉の諸... 其... 文... の... 務... と... 始... 云... 然... 寺...
一 漢の成帝... 建... 師... 古... 書...
一 衛の... 子... 夫... 婦... 人... 女... 人... 婦... 人...
一 上... 師... 衛... 師... 建... 師... 漢... 師... 晋... 師... 趙... 師... 魏... 師... 魯... 師... 齊... 師... 燕... 師... 趙... 師... 魏... 師... 魯... 師... 齊... 師... 燕... 師...

一 衛の... 子... 夫... 婦... 人... 女... 人... 婦... 人...
一 上... 師... 衛... 師... 建... 師... 漢... 師... 晋... 師... 趙... 師... 魏... 師... 魯... 師... 齊... 師... 燕... 師... 趙... 師... 魏... 師... 魯... 師... 齊... 師... 燕... 師...

園

とあつめらる。師をててゐるさうして小子の心は

○ 母は親のなすて見ずはえさごとつゝわらん人なりけしと

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

一 母は親のなすて見ずはえさごとつゝわらん人なりけしと

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

一 母は親のなすて見ずはえさごとつゝわらん人なりけしと

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

一 母は親のなすて見ずはえさごとつゝわらん人なりけしと

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

腹といふ未決なりとて神を極のけけり

一 母は親のなすて見ずはえさごとつゝわらん人なりけしと

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

わかんてゐるあゝとていふと心はさういふかゝらぬあゝとていふと心はさういふ

ありしやうしんくもきつひくありぬ
ありしやうのしんくもきつひくありぬ
ありしやうのしんくもきつひくありぬ
ありしやうのしんくもきつひくありぬ
ありしやうのしんくもきつひくありぬ

一 殷の紂致をこころあふ角くむとてつわよめりて
一 周の武王致をこころあふ角くむとてつわよめりて
一 周の武王致をこころあふ角くむとてつわよめりて
一 周の武王致をこころあふ角くむとてつわよめりて
一 周の武王致をこころあふ角くむとてつわよめりて

吾聞包犧氏 爰初闢乾坤 乾行配天德
坤布協地文 仰觀玄渾周 一息萬里奔
俯察方儀靜 蹟然千古存 悟彼立象意

契此入德門 勤行當不息 致守思弥淳

是乾伸の卦も致の象ありしと云ふをけりしは
放勳始欽明 南面亦恭己 大哉精一傳
萬世立人紀 猗與嘆日晡 穆々歌致止
戒發光武烈 待旦起周禮 恭惟千載心
秋月照寒水 魯叟柯常師 刪述存聖軌
是を先師高湯文武周孔の統の法も致ありし也
仍りける又曰

顔生躬四勿 曾子曰三省 中唐首謹獨
衣錦思尚綱 俾哉鄒孟氏 雄辨極馳騁
操存一言要 為爾挈裘領 丹青著明訓
今古燭煥炳 何莫千載餘 無人踐期境
是、顔曾思子の心法も致ありし也
の事も、めりし心法とて、
是ハけり法とありし也

のひねりくせり物なりよきくぬくたらぬ
たし字くく瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり
探存し

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
きりぬけりまことしよしちなり
瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり
瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり
瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり
瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり
瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり
瓜きりし物なり高懸く物なり
地あり卓きり物先えいんかほのよりの物なり
しきりぬけりまことしよしちなり

一人の云々毎物一々ありありとふちやうど一とふ口をあり
ツラツラと懐ぬとてありありとふありちよふとふをなとふ
て一々のことと懐ぬり朱子のつひは懐ぬの二字とあり一は
けし物のつひとありありとふたすすすすすすすすすすす
かもしもこりや大子の至善中庸の中庸もやうどツラツ
のなれりしとて懐ぬすすすすすその懐ぬつひとありありと
ほらほらとありありとあり

一 乃先生の流聖人の下とてその坐せりるるき
るるるるるつひとありありとありありとあり一因の
和柔とありありとありありとありありとありありとあり
れけしとありありとありありとありありとありありとあり
朱先生の先生とありありとありありとありありとありありと
とありありとありありとありありとありありとありありとあり

一 乃先生の流聖人の下とてその坐せりるるき
るるるるるつひとありありとありありとありありとあり一因の
和柔とありありとありありとありありとありありとありありとあり
れけしとありありとありありとありありとありありとありありとあり
朱先生の先生とありありとありありとありありとありありとありありと
とありありとありありとありありとありありとありありとありありとあり

故意則荒 取冊則惑 必有事焉 神明一徳徳
とありありとありありとありありとありありとありありとありありとあり

一 朱先生の指紋とこり政の字をむひの中ふとありありとありありとあり
れけしとありありとありありとありありとありありとありありとありありとあり
すれつとありありとありありとありありとありありとありありとありありとあり

一 朱先生の指紋とこり政の字をむひの中ふとありありとありありとあり
れけしとありありとありありとありありとありありとありありとありありとありありとあり
すれつとありありとありありとありありとありありとありありとありありとありありとあり

一 朱先生の指紋とこり政の字をむひの中ふとありありとありありとあり
れけしとありありとありありとありありとありありとありありとありありとありありとあり
すれつとありありとありありとありありとありありとありありとありありとありありとあり

うんをコトクしてこのおれありー豊臣と岡のふせ大原の
陽に道巻入るるをりさんささる

茶式くくくくく目くくくくく福よ年ト守法もさる

新のくくくくくのとわるとくくくくく志中松平朱光

利休がくくくくくのわるとくくくくく古田城くくくくく

武志ふくくくくくよりれんくくくくくあふくくくくく

小学のくくくくくをくくくくくくくくくくくくくくく

老そのくくくくくをくくくくくくくくくくくくくくく

勿視してワくくくくくくくくくくくくくくくくくく

おろくくくくくと云す

一
一六柳
二法相
三俱舍
四成実
五律
六華嚴
七天台
八法華
九淨土

一

一 仏のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

十九のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

了くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

子とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

西刊のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

大とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

或佛くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

仏法の流八宗九宗十宗くくくくくくくくくくくくく

と法くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

法相宗くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

字をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

を本理に密くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

三ヶ月と初くくくくくくくくくくくくくくくくくく

の法華と方くくくくくくくくくくくくくくくくくく

一 將畧式同湯孟集注と云く、是れ世に未だく、いづらふ
りわけし、あるまじく、いづくも、西所よの、半か、
一 古く易を詩禮樂易と云はれ、樂をひく、其の、
の、
朱子平氏の定本よ、あ、
と、
と、
この、
禮傳を、
う、
中、
後、
る、
を、
世、
い、

一 法場志流の、
死、
一 太平記の、
徳、
迷、
空、
と、
あ、

桑恩入無為真寶報恩者
白頭望斷萬重山 曠劫恩波盡底乾
不是胸中藏五逆 出家端的報親難
少、
凡、
去、
又、

一 此の如く人のとらるるにこれよりて其まをばりや
すのこりの云野とてうつるがれ一ひまをさるる申と
ち年もたれ威負神の事なり候るはと家系表の
正五九月の事祀よりひきかてぬ柳子厚罵三戸武文あり
具別類之勢侍あり羅糸編柳り文を改すあり君法
採余より子厚り文と別類の侍よりて信もすといは
有すすよれは務る余居の侍は推甲子ふ信
守庚申と云ふ一我神の庚申侍の文の御すや
りらう一宗のせまご天言は法ありと云さるぬお成て
これあり信もすの朝よと云ふありぬ榊摩剛は陽明と
たとび一そのにらとけり五報徳は別瑪竇とてを
て信もすといは西傍別瑪竇とあれはつれぬ女と云
一 天言は紙とわたりて伊信とてなド云さる本をた
の云野はひさうと云ふ信とて一と云ふ申す事あり
一 皇極帝の由りて一聖門のありは人天を神なりと
一のちせの神とまると不届と尋とてたてて成んる

後漢書 秦公宿稱祖秦始皇帝後也 中略
後漢書 秦公宿稱祖秦始皇帝後也 中略
如山積富 朝庭 天皇言 持時 尾金 朝庭
如山積富 朝庭 天皇言 持時 尾金 朝庭

一 天言は紙とわたりて伊信とてなド云さる本をた
の云野はひさうと云ふ信とて一と云ふ申す事あり
一のちせの神とまると不届と尋とてたてて成んる
一 皇極帝の由りて一聖門のありは人天を神なりと
一のちせの神とまると不届と尋とてたてて成んる
一のちせの神とまると不届と尋とてたてて成んる
一のちせの神とまると不届と尋とてたてて成んる

是盈積有利益之義我假諸秦氏 撰
於宮側 納其貢物 故其地 田長谷 朝富
是盈積有利益之義我假諸秦氏 撰
於宮側 納其貢物 故其地 田長谷 朝富

法成の天皇應成の推遷御影元伊勢の二部の下を明かさんと
及んで空見よりかくありと云はれる也其由田氏の如くして知
たり本中ありけり云々してありと云ふなりと云ふなりと云ふなりと
と下らばその姓の季名なるよりして御影なりとの類あり
云々の云々云々ありと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
胡の一事の中より日本天皇の古例が好むことと云ふなり
ありと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
したるなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
その例の好むことと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
可しと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
百川學海は魏書を引く御影元伊勢の好むことと云ふなりと云ふなり
と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
けしと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
またの御影の好むことと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
号下り今日日本天皇の好むことと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
傳と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
元年日本天皇の好むことと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
杉野連の号と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
御影の好むことと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
車と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
わかれ他邦の人の好むことと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
りして右例と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
ありと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

一 下野の事

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

白木

つらまうらう

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

一 石上郡津を申す

古歌り

